

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	春名 大輔	所属	道樹会札幌ことにメンタルクリニック
研究会等名称	臨床心理科学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 6名 (うち認定心理士 4名) 非会員 21名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>本研究会は、「科学的視点をもった臨床実践 (Scientist & Practitioner) の啓蒙」そして「臨床心理学と基礎心理学 (心理科学) のクロスオーバーのために臨床家がすべきことを検討する」という 2 点をテーマに活動している。今回は「認知行動療法」をテーマに多領域での実践というポイントを加えて研修会を実施した。開催日は 11 月 4 日 (土) で、宮城県仙台市で開催した。</p> <p>研修会には、24 名の参加申し込みがあり、最終的に 21 名が参加した。参加者属性として、年齢は 30 代が最も多く、男女比は男性 5 人 (23.8%)、女性 16 人 (76.2%) で、女性が多かった。居住県は、やはり宮城県が最も多かったが、山形県や秋田県といった東北地方の隣県に加え、広島県からの参加者もいた。最後に所属先については、医療機関と教育機関が概ね同程度の割合で、次いで行政機関が多かった。</p> <p>所感として、研修会参加者数は中規模で、ディスカッションを経て知見を深めていく上では、適当な人数だったと思われる。また参加者層も今回のテーマ同様、多領域の実践家が参加され、活発な意見交換が行われた。多くは認知行動療法に関心を持つ参加者であり、その知識や関心に対して影響を与えた研修になったと考える。臨床研究への関心について変化を促進することは、残念ながらできなかったが、認知行動療法の実践を通して、科学的視点を持つことの重要性を知ってもらえたのではないかと考えている。また、心理学の専門資格についての展望についても参加者に示唆を与えることができた。専門職としての立場が確立していくことで、より良い実践の探求、ひいては、本研究会のテーマをより多くの心理専門職で検討していけるようになるのではないかと考える。最後に、今回初めて仙台で研修会を開催し、自由記載欄にその点について謝辞を多く見ることができた。研修機会の均霑化という意味でも、研修を望む地域での開催を今後とも検討していきたい。</p> <p>※参加者のアンケート結果について、詳細は別添資料参照のこと</p>		

(様式5)

2023年 11月 30日

日本心理学会研究会

令和5年度会計報告書

研究会名称 臨床心理科学研究会

研究会番号 23006

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2023年11月4日	研修会会場費	¥71,500

支出合計 ¥71,500